

ひこうき雲

地球の温暖化を停止させるためには、CO2フリーの新産業革命が必要です！

2050年の「新産業革命」を目指して！

CO2フリーによる「新産業革命」がもう始まっている！

世界中が合意し、トランプが壊してしまった「パリ協定」から早5年が経過し、アメリカの大統領がバイデン大統領にチェンジし、地球温暖化対策は、ようやくとまらなくなりました。パリ協定の骨子は、温暖化ガスの人為的な排出を抑え、今世紀後半に世界の平均気温上昇を産業革命前の1.5℃以内、2℃以内とする目標を掲げ、2050年までにCO2排出をゼロにするという協定でしたが、すでに4年のプランクが過ぎ、絶望的な状況になりましたが、バイデン政権のパリ協定への復帰で国際的に大きな前進が見られるのではないかと期待されています。

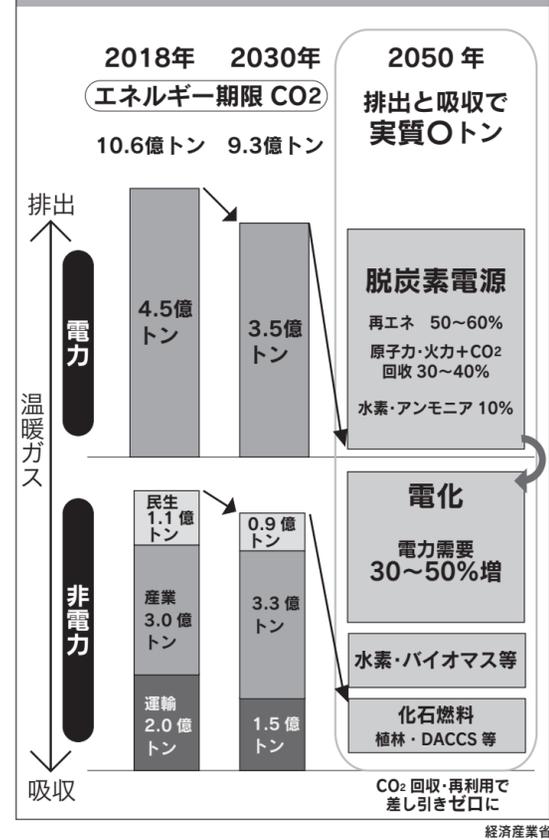
我が国でも、菅政権が誕生し、「2050年までに脱炭素社会の実現」を明言したこと、今後30年間の脱炭素社会に向けて、産業構造や社会経済の新しいあり方について経済と環境を好循環させていくための挑戦

「グリーン成長戦略」ではどのような目標が掲げられたか？

エネルギー産業、輸送・製造関連産業、家庭、オフィス寒冷産業などの14分野で野心的な目標が示された。30年には年額90兆円、50年には、1900兆円程度の経済効果を見込んでいます。電力部門の脱炭素化が最大限となり、再生可能エネルギーの導入が最大の課題です。新築ビルに対する太陽光発電システムの義務化や、一般家庭に対する義務化なども検討されています。更に、昨年度は義務化を免れた新築住宅の「省エネルギー基準」の義務化も本格的に検討されています。再生可能エネルギーでは、取り組みが遅れていた海上風力発電に期待が掛かっています。発電システムが掛かっています。NEEDO(産業技術総合開発機構)の研究では、日本の場合、

水深200メートル以内の海域面積は50メートル以内の海域の5倍に及び、海面に浮かべる浮体式が大きな市場価値を持っているようです。NEEDOは、水深100メートル以内の次世代浮体式の実証研究を北九州沖で行っています。

【2050年脱炭素】の実現イメージ



脱炭素生活

世界の発電量の40%は、石炭火力でまかなわれている。現在、日本の総発電量の32%が石炭火力でまかなわれている。荒天耐性や熱帯低気圧等での過酷な実証実験でデータの蓄積が行われています。

は石油火力で、液化天然ガスの火力発電の約2倍以上のCO2排出になるため、我が国の新設は控えられているが、世界の発電量の約40%は、石炭火力でまかなわれているため、CO2の回収をブラッシュアップした高効率の発電システムにリプレイスすることが出来れば、地球規模で大幅な温暖化ガスの削減が可能になるため、NEEDOの助成を受けて中国電力が瀬戸内海の大崎上島で実証実験を行い「酸素吹石炭ガス化複合発電」とCO2分離回収技術の実証実験を終え、国内最新鋭火力発電の発電効率40%を上回る46%の達成と共に、燃焼前の石炭ガスからシフト反応器でCO2と水素に変換し90%以上を回収し、CO2分離後の水素は、燃料電池(Fuel Cell)に送り、トリプル複合発電を行居ります。商用機でCO2を90%回収し、発電効率47%を目指します。このよ

「CCUS」とは、日本語では「二酸化炭素回収・貯留」技術と呼ばれます。発電所や化学工場などから排出されたCO2をほかに気体から分離して集めて中深くに貯留・圧入することです。いわゆる「CCUS」は分離・貯留したCO2を利用しようというものです。たとえば米国内では、CO2を古い油田に注入することで、油田に残った原油を圧力で押し出さつたCO2を地中に貯留するというCCUSがおこなわれており全体ではCO2削減が実現できるほか、石油の増産にも繋がるビジネスになっています。日本の燃料電池(Fuel Cell)は世界的に優れています。水素ガスタービンなども進んでいます。現在は、EV(電気自動車)が注目を浴びていますが、その先には水素による本物の技術革新が始まります。本物のときに再び日本に脚光が浴びることになります。松下建設と共に、新時代を見据えて住宅を建てて下さい。

なNEEDOの動きで、中国電力が瀬戸内海の大崎上島の火力発電で「酸素吹石炭ガス化複合発電」とCO2分離回収技術の実証実験を終え、国内最新鋭火力発電の発電効率40%を上回る46%を達成すると共に、燃焼前の石炭ガスからシフト反応器でCO2と水素に変換し90%以上のCO2分離に成功しています。CO2分離後の水素は、燃料電池(Fuel Cell)に送り、トリプル複合発電を行います。商用機でCO2を90%回収し、発電効率47%を目指します。

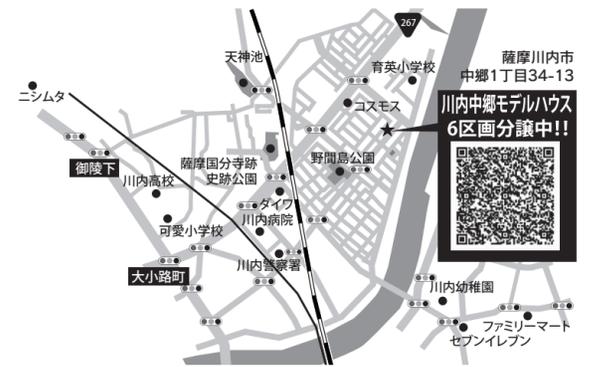
「CCUS」とは、日本語では「二酸化炭素回収・貯留」技術と呼ばれます。発電所や化学工場などから排出されたCO2をほかに気体から分離して集めて中深くに貯留・圧入することです。いわゆる「CCUS」は分離・貯留したCO2を利用しようというものです。たとえば米国内では、CO2を古い油田に注入することで、油田に残った原油を圧力で押し出さつたCO2を地中に貯留するというCCUSがおこなわれており全体ではCO2削減が実現できるほか、石油の増産にも繋がるビジネスになっています。日本の燃料電池(Fuel Cell)は世界的に優れています。水素ガスタービンなども進んでいます。現在は、EV(電気自動車)が注目を浴びていますが、その先には水素による本物の技術革新が始まります。本物のときに再び日本に脚光が浴びることになります。松下建設と共に、新時代を見据えて住宅を建てて下さい。

始良『H2V』展示場 公開中！



停電時、車から家へ電気を供給できる『V2H』システム搭載。感染症を提言できる循環空調システムと相乗効果のある設備。鹿児島に家族の日常と健康を守る家が完成しました。2020年からは、自活エネルギー住宅の本格的なZEH(ゼッチ)の時代を迎えます。『V2H』住宅は、太陽光発電を軸に「自活エネルギー住宅」を実現。住宅とEV自動車が連結し、家庭用蓄電池の10倍以上の蓄電能を持つEV自動車、停電時等の家庭用電源としても機能します。松下建設がご提案する近未来型の自活エネルギー住宅を是非ご体感ください。

薩摩川内市 新モデルハウス 好評公開中！



松下建設『街並みProject』薩摩川内市で人気のある、『一部2階建て』と『スキップフロアのある平屋建て』そのどちらのプランも反映できる区画割り。1つの住宅メーカーだから実現できるお互いの窓の位置や、採光・通風を考慮して設計できる松下建設の分譲地は、外観も整った美しい街並みの形成も魅力の一つです。土地・建物を松下建設が販売・建築しますので余計な経費を抑えて総予算を迎える事ができます。

和楽
WARAKU

和楽 II
WARAKU

モデルハウス 建築中！

(鹿児島市谷山中央1丁目5006 付近)

丁寧仕上げられた『和』の意匠は 静謐な美しさを いつまでも『楽』しめる

住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。 ☎0120-079-089